



●予測とその周辺課題●

- 第5回 日時：55年10月13日(月) 18:00~20:00
場所：早大システム研 出席者：8名
(1) 文献紹介(西野教授)
TIMS 編集文献 FORECASTING の概要につき紹介があり、今後メンバーで手わけして読んでいくことにした。石鍋氏(東洋製缶)より、原油価格の包装材料への影響について話題の提供があった。
- 第6回 日時：55年11月12日(水) 18:00~20:00 場所：早大システム研 出席者：7名
(1) 輸送需要解析(小野氏：鉄道技研)
東京、大阪間に新しい交通機関を設置した場合、既設交通機関(航空、新幹線、在来線)とその新設線の輸送需要に関して、新設線の速度、運賃、新幹線との連絡、エネルギーコスト等をファクターとしたモデルを展開。運賃、所要コスト、労力項を合わせたものより輸送抵抗なる概念を導入し、それにより需要の各機関への配分を決めている。
(2) 国際 Teletraffic Congress での予測論文紹介(上田氏：電々公社)
- 第7回 日時：55年12月10日(水) 18:00~20:00 場所：早大システム研 出席者：10名
(1) TIMS 文献輪読(上田氏：電々公社)
TIMS SERIES MODEL BUILDING AND FORECASTING: A SURVEY
(2) 競合品予測(浪平氏：ブリヂストンタイヤ)競合品間の変遷の成り行きを、確率過程をもとにしたモデルを作成してシミュレートした。
- 第8回 日時：56年1月21日(水) 18:00~20:00
場所：早大システム研 出席者：9名
(1) 交通量予測への BOX-JENKINS 時系列手法利用文献紹介(村中氏：運輸調査局)
(2) 文献輪読(小野氏：鉄道技研)
指数平滑とその関連手法

●日本における社会システム分析●

- 第9回 日時：55年9月13日(土)14:00~17:00 場所：日本能率協会 701 会議室 出席者：10名 テーマ：

日本型経済体制論としての「政府介入と自由競争の新しいバランス」(防衛庁・太田述正氏)

これは本年発行の「産業社会と日本人」(筑摩書房)の中の一部として同氏が論述してあるものを、その背景まで含めて発表したものである。この中で、われわれが社会システムを分析する場合にきわめて示唆に富むものとして、多傘型システム(マルチアンブレラシステム)の考え方が披露された。これはきわめて実証性に富み、大変勉強になった。

- 第10回 昭和55年12月13日(土) 14:00~17:00
場所：統計数理研究所 出席者：20名
議題：(1) 日本における社会システム史観(イエ社会論)
(2) 社会的紛争におけるシステム分析
講演者：東京大学 公文俊平氏

日本における社会システムをどうみるか、その分析にあたって普遍的な原点となる考え方は何か、われわれは常に頭を悩ますところであるが、「イエ社会論」の考え方はきわめて示唆に富むものがあった。また現在各地で起こっている社会的紛争について、社会システムの見地からどのような意義をもつかの研究も進められた。

●経営コンサルタント●

- 第9回 昭和55年12月6日(土) 14:00~17:00
場所：東京都勤労福祉会館
(株)ヤクルト本社企画部の中村義郎会員が「ヤクルト社の経営理念とその実施オペレーション」について発表された。その多変量解析による経営分析はなかなか示唆に富むものであった。
- 第10回 日時：1月10日(土) 14:00~17:00 場所：東京都勤労福祉会館 出席者：9名
「1981年、経営のORをORする」について大いに語りあった。ORを創計学・発想学・運営学・創新学などと、日本語にしてはという案もでた。

●交通問題●

- 第5回 9月17日(水) 18:00~20:00 場所：東洋経済ビル 出席者：17名
テーマ：都電の廃止とその背景
講師：元東京都交通局長 田中白有氏
戦後の都営交通事業の推移について、社会情勢、世界主要都市の路面電車の経過、財政等と関係づけながら説明され、また交通事業財政再建をめぐって都電廃止計画の企画・実施を担当された経緯、廃止の功罪について説明を聞いた。東京の都市構造は昭和30年代から急激に変

化した。交通政策面では全国交通網が重視され、都市総合交通政策は後回しになった。地下鉄・道路は整備されたが、公共交通優先が無視され、サービス低下とともに都電は追放され始めた(40年代)。また都は自らの交通政策に制約を受けていたため、財政悪化を理由に都電廃止に追い込まれた。

●第6回 10月15日(水) 18:00~20:00 場所:東洋経済ビル 出席者:12名

テーマ:物流面からみた郵便

講師:郵政省経営企画室長 丸山一敏氏

郵便は、情報媒体としては通信と対比されるが、物そのものが送られる。すなわち物流そのものであり、郵便局の配置、要員手配がすべてである。物流工程に改善の余地がない(自らの輸送手段は集配以外に持たない)という問題点を抱えている。

小包郵便、通常郵便の数量は伸びており、必ずしも郵便離れは起きていないが、経営体として見ると、それらの料金は安いので収入が伸びず、また費用の9割が人件費である。そのため今回の郵便料金改定は、小型物品分野での宅急便の急迫もあり、どのような影響をもたらすか懸念されている。

●第7回 11月19日(水) 出席者:14名

テーマ:宅急便について

講師:大和運輸関東支社 齊木勝彦氏

昭和51年1月に営業を開始して以来、倍々と取扱い量を増やしており、54年度は2227万個、55年度は4000万個(予)に達している。大和運輸は従来から関東一円の路線網を持っており、ここでの集荷配達能力の有利さが宅急便の成功に活かされているという。宅急便は家庭を中心とした非商業貨物を対象とし、集荷配送・スピード・手軽さというサービスを提供することにより、潜在需要を掘り起こすことができた。しかし、これから事業としてさらに規模の利益を追求しようとする、仕分け能力、トラック配車をシステムとしてどう維持していくかが問題となろう。

●第8回 12月17日(水) 出席者:12名

春季大会への中間報告についての報告に続いて、横山主査が検討されている「鉄道と社会システム」の第1回の成果として、「鉄道と身体障害者」について報告があり、討論を行なった。

●政策問題●

●9月例会 昭和55年9月20日(土) 14:00~17:00

場所:三菱総研第二会議室 出席者:11名

講師:上田亀之助(上田イノベーション研究所)

議題:「総合商社」

●10月例会 昭和55年10月25日(土)~26日(日) 合宿実

修 場所:防大および住友重機 出席者:17名

インストラクター 柴田祐作(日立システム研)

小岩 明(社会環境システム研)

議題「SINPLの検証として80年代の総合安全保障」

8月例会で紹介のあった予測・計画の統合手法SINPLを合宿討議で検証した。レンズ法とも関連があるので小岩氏(社会システム分析部会幹事)を招き、テーマは社会に関連があり、かつ資料も多い安全保証問題を取りあげ討議した。この結果は3月学会で報告する。

●11月例会 昭和55年11月15日(土) 14:00~17:00

場所:三菱総研第二会議室 出席者:9名

講師1:齊藤 昂(防衛庁)

議題1:R. Vernon "The Fragile Foundations of East-West Trade" Foreign Affairs Summer (1979)につき7月例会に引き継いで多国籍企業問題を論じた。

講師2:富沢健一

議題2:多目標問題解決の理論と実例

R. L. キューおよびH. ライファーの Decisions with Multiple Objectives: Preferences and Value Tradeoffs の紹介と解説

●12月特別例会 昭和55年12月20日(土) 15:00~17:00

場所:三菱総研セミナー・ルーム(タイムライフビル)

講師:Y・ドロア教授(ヘブライ大)

議題:政策科学について

出席:35名(関連部会およびビジターを含む)

政策科学で世界的に著名なドロア教授が来日し、埼玉大をはじめ各地で講演した機会に、旧知の防衛研修所、福島室長のお世話で特別研究部会を開くことになった。社会システム分析部会、実施理論部会、経営コンサルタント部会の協力を得、齊藤昂会員(防衛庁)のユーモアある名通訳や、若手研究者と教授との質疑応答もあり、有意義な会を持つことができた。

内容は教授が最近手がけている政策科学分野の新しい展開で、不確定な状況の政策課題分析にステージをわけていかにアプローチをするかを中心に話が進められた。この内容や新しい政策科学分野の論文については政策問題特集号(9月を予定)で報告する。